敗者の意気地

里見 脩・文

思い出すことども

新選組、近藤勇の右腕として組織を支え、函館・五稜郭で戦死した、土方歳三。「義と誠」を貫いた武士だった

いわきの戊辰戦争から始めた連載も、会津などを経て、戦争終焉の地・北海道函館に辿り着いた。函館山には戦いで討ち死にした旧幕府軍の魂を祀った「碧血碑」が建っている。

「碧血」とは、荘子の「義に殉じた武士の血は、三年経ると碧色となる」という言に依っている。碑の前でしばし感慨にふけったことを思い出す。

榎本武揚を中心とした旧幕府軍が立て籠もった五稜郭は、ペリー黒船来航による函館港の外国への開港を受け、幕府がフランス式の築城を参考に造成した西洋式の城郭である。戦いは最終的に、榎本が城の攻防戦を回避し降伏したため、戦闘は城外で行われた。戦死者は、旧幕府軍が七百九十六、官軍が百六十五である。

激戦と言えるのは、中島三郎助と恒太郎、房次郎父子が討ち死にした津軽陣屋の戦いと、新選組副長の土方歳三が指揮を執った二股口の戦いで、このため中島と土方は「函館の戦いの英雄」とされている。

また旧幕府軍には、ブリュネ大尉ら十人の幕府のお抱えのフランス軍人が同国政府の反対を無視し参戦し、花を添えている。

帰国した大尉は後年、フランス陸軍参謀総長を務めている。彼の義挙は、日本の武士道に呼応した、西洋の騎士道の具現と言える。

俳号は木鶏と豊玉

中島は幕府浦賀奉行与力で、ペリー来航の際は接待役を務め、黒船の船体構造や搭載砲などを細かに調査し、日本でも黒船を建造するよう老中に提言するなど、優れた人物であったことを窺わせる。明治期に駐英公使を務めた佐倉藩士の林董は、旧幕府軍として函館戦に参戦した経歴を有している。

正社員ドライバー募集中！
会社見学も実施中です。
一緒に働いてみませんか？
提携企業様も募集中!
社員のお子さまをお預かりいたします。

県内運送業界初! 内閣府所管保育園
いわけん保育園 BooBoo ガーデン
【保育時間】7:00～20:00(日祝休)
いわき市小名浜字吹松8-5
TEL(0246)38-7862
【電話受付時間】9:00～17:00(日祝休) https://iwaken-hoiku.jp/
0～2歳児の見学・入園お待ちしています♪
保育園2階に併設
運転手や従業員、提携企業には優遇利用制度があります。
児童発達支援・放課後等デイサービス
いわけんキッズクラブ(いわけん保育園２階)
TEL(0246)38-7332 【電話受付時間】平日 10:00～18:00
https://www.iwaken-kidsclub.jp/

総合物流会社
地域一番の成長企業を目指す！
いわき建設運輸有限会社
代表取締役 吉田司 http://kensetsu-unyu.jp/
本社営業所 〒979-0202 いわき市四倉町上仁井田折敷田3-1
TEL(0246)32-6909 FAX(0246)32-7099
大剣営業所 〒971-8183 いわき市泉町下川字大剣1-159
TEL(0246)96-6444 FAX(0246)96-6499

林は回想録『後は昔の記』で、中島の最後を「中島氏は、津軽陣屋を死所と定め、一族従者合わせて十三人枕を並べて討ち死にす。中島氏は性廉潔にして忠誠なる武士なり。（討ち死にする前日）余に向かい、備えたる古砲を指さし『之こそは、老人が最後の一発なり。敵兵迫る時、発射し、砲も破裂し敵も殺し、我も死する覚悟なり』と言われたり。後年、寄せ手であった薩人に此事語りしに、砲は発したれども砲身は破裂せず、中島氏は接戦されたるを狙撃され死なれけり。死骸を取り出したるに、肩の辺に短冊をつけあり。辞世の句なりしならん」――。

函館戦争で旧幕府軍の戦死者を祀るため、函館山のふもとに建立された慰霊の「碧血碑」

中島は「木鶏」という俳号を持つ俳人としても知られる。一方の土方も「豊玉」という俳号を持ち、『豊玉発句集』と題する句集を残している。奥ゆかしいことに、二人は戦いの前に五稜郭城内で、句会を催している。

その際、中島「木鶏」は「函館の眺望」と題して「漣のままに汀の氷かな」という句と、「君が為　我も蝦夷地へ往くぞかし　にしん（鰊、二心）と云わば　恨なりけり」という狂歌を詠んでいる。

最後は武士として

また林が指摘した中島の辞世の句は、「ほととぎす　我も血を吐く　思い哉」「我も　また　武士と呼ばれん　白牡丹」の二句である。

残念ながら土方「豊玉」の函館における句は残されていない。だが、辞世の和歌はある。討ち死にする前、連れ添った新選組の隊士市村鉄之助に、函館の写真館で撮影した洋装断髪姿の写真と共に実家に届けるよう託した。

「よしや身は　蝦夷の島根に朽つるとも　魂は東の君や護らむ」――。

俳句ではなく和歌にしたところに、士分ではなく郷士であった土方の、武士として最後を飾りたいという心根が表れている。

中島、土方に共通するのは、武士道に殉じるという精神である。武士道の基本を成すのは「義」と「誠」という意識だ。義は「我を美しく」を語源とした美意識を、誠は「言を成す」を語源とした言行一致、偽りが無いことを指している。

子母澤寛（前号で紹介）は、彼等の辞世の句や和歌に凝縮した意気地を、著書『新選組始末記』で次の様に記している。――「貫く士道に迷いなし　今日も誠の旗が往く」――

さとみ・しゅう

1948（昭和 23）年生まれ、いわき市小名浜出身。小名浜一小、一中、磐城高校、早稲田大学卒。東京大学大学院博士課程単位取得満期退学 博士（東京大学　社会情報学）。時事通信社政治記者、大妻女子大学大学院教授などを経て、現在、同大学研究所特別研究員。主要著書『言論統制というビジネス』（新潮社）、『新聞統合』（勁草書房）、『ニュース・エージェンシー同盟通信社の興亡』（中公新書）、『岩波講座「帝国」日本の学知』第４巻（共著・岩波書店）など

お客様に信頼いただける
パートナーとして
福祉用具レンタル
特定福祉用具販売
住宅改修
SEIDAI
株式会社セイダイいわき営業所介護事業部
〒971-8151 福島県いわき市小名浜岡小名2丁目3-1（丹野ビル2F）
TEL.0246-88-8777　●営業時間/9:00～18:00（日曜・祝日休み）